

生活科 授業の構想

(2年1組)

授業者 玉井 一行

1 単元名「みんなで そだてよう」

2 授業仮説

○ウサギの赤ちゃんが育つ場所や成長の様子に視点を当てた「お世話の工夫計画」や、ラウンドテーブルによる自分の思いや願いを伝え合う場面などを工夫することにより、主体的で継続した生き物の飼育活動を行い、生き物への親しみをもち、より大切にすることができる **〔単元の仮説〕**

○自分なりに調べた「ウサギの赤ちゃんのお世話計画」の検討場面で、他者評価を工夫することにより、育つ場所や、生命をもっていること、成長していくことなどの気付きを一層深め、飼育活動への意欲を増すことができる **〔本時の仮説〕**

3 単元のねらいと子どもの実態

本単元は学習指導要領生活科の内容(7)、と主に関連しています。「動物を飼ったり…、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち」「生き物への親しみをもち、大切にすることができる」という活動を【具体的な活動や体験】の中心として単元を構成しています。

関連した事前調査を行い、本学級の子どもの実態から重視したことは右の◎印の3点です。「家庭での飼育経験の少なさ」「全員が積極的にウサギに接してるとはいえない」「ウサギのことを考えたお世話への気付きが少ない」ことに着目しました。

本単元の飼育における具体的な活動や体験を通して主にかかわる「対象の中心」は『ウサギの赤ちゃん』です。さらに、『一緒に活動する友達』『(1年生の時からお世話になっている)旭山動物園飼育係の奥山さん』などの「ひと」とのかかわりによって、ウサギの赤ちゃん育つ場所や様子などに視点を当てて、①ウサギのことをもっと知ること、②ウサギの赤ちゃんのことを考えたお世話ができるようになることを大切にします。

飼育小屋でウサギをお世話する活動の質的な変化を求めています。他者評価やラウンドテーブルなどの学び合いを工夫し、ウサギの赤ちゃんの育つ環境、変化や成長への様子に関心をもち、「ウサギへの親しみ」や「ウサギを大切にできる態度」が一層深まることをねらって本単元を構想しました。

＜◎重視した子どもの実態＞

- 動物へのアレルギー症状のある子どもは3名いるが、特定の動物(イヌ、ネコ)に対してであり症状も軽度である
- ◎家庭で小動物の飼育経験のある子どもは20%(8人)と少ない
- ◎2年生になって、まだウサギに積極的にさわれない子どもが20%(8人)いる
- うんちやおしっこの片付けが苦手な子どもが43%いる
- ウサギの好きな餌については、すべての子どもたちがかわりの中から気付いている
- ◎ウサギのお世話は、「自分が好きだから」が多数であり、ウサギの気持ちよさ等のウサギの側になってのお世話に着目している子どもは少数である(2名)

4 単元の指導計画（19時間扱い～本時9/19）

第1次 「みんなの青空学級園」をつくろう …… 4時間

第2次 ウサギの赤ちゃんを育てよう …… 5時間（本時5/5）

第3次 大きくなったね …… 2時間

第4次 お世話をまとめて 伝えよう …… 8時間

5 研究とのかかわり

(1) 単元の目標…研究視点1-1

○ウサギとその赤ちゃんを飼育し、野菜や自分で種を選んだ草花を育てることを通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。

(2) 単元の評価規準…研究視点1-2

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
ウサギやウサギの赤ちゃん、野菜や草花、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、親しんだり大切にしたりしようとしている	工夫してウサギを飼ったり野菜や草花を育てたりするとともに、世話をしたことや生き物のことなどについて表現することができる	動植物は生命をもっていることや成長していること、ウサギや野菜、草花の世話の仕方などに気付いている

(3) 学習活動(次)における具体的評価規準…研究視点1-2

ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
①野菜や草花を育てようとしている	①変化や成長の様子に合わせて水や肥料をやるなど、世話の仕方を考えることができる	①育てている野菜や草花の生長や変化の様子に気付いている
②育てているウサギやウサギの赤ちゃんの成長を楽しみにしながら世話を続けようとしている	②自然の中での状態を調べたり、ウサギやウサギの赤ちゃんの好む環境を作ったりなどして適切にかかわることができる	②育てているウサギやウサギの赤ちゃんに合った世話の仕方があることに気付いている
③触ったり、抱いたり、水や餌、肥料をやったりなどして親しく接しようとしている	③世話の工夫や世話をした感じたこと、生き物の様子や成長の期待などを表現することができる	③ウサギなどの誕生や成長を喜んだり死を悲しんだりすることを通して。動植物も生命をもっていることが分かっている
④育てる喜びを感じ、生き物への親しみをもち、大切にしようとする	④世話の工夫や世話をした感じたこと、気付いたことなどを絵や文など自分の選んだ方法で分かりやすく工夫して表現することができる	④飼育・栽培活動を振り返り、生き物も自分たちと同じように生命をもっていることや、世話の大切さ、育てる喜びなどに気付いている

(4) 単元構想表及び評価計画 (19時間扱い, 本時9/19) …研究視点2-1

次時	学習の流れ	主な学習活動	評価計画(評価方法と見取りの視点)
	* 事前調査	○質問紙法による事前調査により生き物とのかかわりの傾向やお世話の様子や気付きの実態を把握する	□保護者と子どもへのアンケート調査(質問紙法) ・飼育・栽培活動への興味・関心を出会いの活動へ生かす
第1次 みんなの	対象との出会い 活動への見直し	○6種類の種の中から気に入った種を選んで花を育てる<一人一鉢> ○学級園の栽培計画を立てる ・シチューが食べられるといいね 第1次の共通課題～花の種や野菜を植えて育てよう	□行動観察「ア①」 ・水やりやお世話を行っているか ・世話の仕方を工夫しているか
【4時間】	4 活動のまとめ	・ニンジンの間引いたらウサギたちにあげられるね どんな花が咲くのか、実がなるのか楽しみだね	□行動観察「イ①」(問いかけ) ・世話の仕方を調べているか
		○見つけたよカードによる継続観察	□作品分析「イ①, ウ①」
第2次 ウサギの赤ちゃんを育てよう	① 対象との出会い	○冬の間ケージで育ててきたウサギ(クリリン)のお世話を振り返る ・今まできゆうくつだったね ・最初は赤ちゃんだったよね ・赤ちゃんが生まれるかな ラウンドテーブルの設定Ⅰ ○ウサギを飼育小屋へ移してお世話を開始する ・自分たちで育てるぞ	□作品分析(自己評価)「ア②, ウ②」 ・ウサギのお世話に積極的ではない子ども⇒お世話中に対話する
	① 活動への見直し	○飼育小屋のお世話について考える ・このままで赤ちゃんが生まれてもいいのかな ウサギの赤ちゃんを育てよう ○何が分かるといいのかな ・飼育環境 ・注意すること ・必要な道具 ・調査方法	□行動観察(日常)「イ②」(問いかけ) □作品分析(カード)「ア②」(かき加え) ・赤ちゃんのお世話に対して興味が少ない子ども⇒事後に対話
	② 個性的な追求活動	○育て方を調べよう(資料の紹介) ・本, 人に聞く, インターネットからの資料 など ○飼育小屋のお世話工夫計画を考える ・赤ちゃんが生まれる準備 ・赤ちゃんのお世話の準備 ラウンドテーブルの設定Ⅱ	□行動観察「ウ②」 ・ウサギのことを調べているか ・習性や自然環境へ着目しているか □作品分析(自己評価, 計画表)「イ②」 ・ウサギの赤ちゃんに合ったお世話か ・お世話の工夫が調べられない子ども⇒対話, 資料の提示
	① 活動の見直し 活動のまとめ	○飼育小屋のお世話工夫計画を交流し合う ○旭山動物園飼育係からのアドバイス ウサギの赤ちゃんが生まれて, 元気に育つといいなあ ラウンドテーブルの設定Ⅲ ○活動の振り返り	□発言分析「ア②, ウ②」 ・ラウンドテーブルでお観察(問いかけ) □作品分析(自己評価)「ウ②」 ・ウサギの赤ちゃんのための工夫か □日常の行動観察「イ②」
第3次	2 活動への見直し	○ウサギの赤ちゃんや野菜, 草花の生長の様子を「見つけたよカードに」表す(継続観察の掲示) 第3次の共通課題～ウサギの赤ちゃんや野菜, 草花の様子をよく見よう ○変化の様子について話し合う	□日常の行動観察「ア③, イ③, ウ③」 □作品分析「イ③」 □発言分析「ウ③」
第4次	8 活動のまとめ	ウサギや野菜, 草花のお世話は楽しかったね。もっと生き物が好きになったよ	

(5) 解決への見通しを確かにもつ工夫…**研究視点2-2** (第2次にかかわって)

ウサギの赤ちゃんが生まれて、育つためには何が必要なのかを考えます。

赤ちゃんのお世話についての「計画表」を各自が作ります。現在の飼育小屋の環境と赤ちゃんが育つための環境に違いがあるのか、また違いが必要なのか、子どもたちのウサギの赤ちゃんに対する「思い」や「願い」が計画表の中に表れることを期待しています。ここで重視したことは、「ウサギの赤ちゃんを育てる」ことに対して以下の4つの視点が明確になっていることです。そうすれば、見通しを確かにもつことができると考えました。

【図1～第2次の計画カード】

クリリンの赤ちゃんをそだてるけいかく	
2年1組	名前
①どうやって調べますか	
②しいくごやのくふうはひつようですか	
③あたらしく ひつような ものやどうぐはありますか	
④お世話するときに ちゅういすることは何ですか	

【ウサギの赤ちゃん飼育計画の見通しを確かにもつための視点】

- 調べる方法は何か
- 飼育環境はこのままでよいのか
- 必要な道具はあるのか
- お世話で注意することは何か

計画表を作成する直前に、みんなで赤ちゃんを育てるには何が分かればよいのかについて話し合います。大まかな観点を整理して、計画表に予想を書き込ませます。

さらに、実際に調べて分かったことと予想とが違っていった場合に、書き加えを行います。

計画表の見直しを行うことで、ウサギの赤ちゃんを飼育するための見通しがより確かなものとなります。

(6) 自分のかかわりかたのよさに気付く自己評価の工夫【研究視点2-3】(第2次)

第2次の活動の中心は「ウサギの赤ちゃんの育て方計画」です。ウサギの赤ちゃんへの「思い」や「願い」が具体化し、だんだん自分にとって楽しい、うれしい、親しみを感じるなどへと深まったり、広がったり(多様化)していくことを求めています。

子どもたちにとって、よりよいかかわり方とはどういうものなのか、自分のよさになかなか気付きません。そこで、自己評価カードを次の点から工夫しました。右の様に、活動直前に自分のかかわりかたについて評価項目として自己決定(またはモデルの中から選択)をします。指導者やかかわった友達、専門家などからの他者評価を効果的に関連(後述)させることで、一層自分のかかわりのよさへと気付くことができると考えました。

【評価項目を決定させる主な観点】

- 次の活動において自分が
- 「がんばりたいこと」
 - 「工夫したいこと」
 - 「期待すること」

【図2～第2次の自己評価カード】

ウサギの赤ちゃんをそだてよう	
2年1組	名前
①ウサギのお世わをがんばろう	
ウサギの赤ちゃんのお世わでがんばりたいことはどんなことですか?	
②赤ちゃんのそだてかたをしらべよう	
③赤ちゃんのそだてかたをくふうしよう	
④赤ちゃんをそだてよう	

(7) 赤ちゃんを育てる「思い」や「願い」を表出し合い、学び合いの前提条件をつくる
 ラウンドテーブル設定の工夫…**研究視点3-1**（第2次～本時）

飼育活動を、より主体的に行える様な質的な変化を求める本単元では、一人一人のウサギの赤ちゃんへの「思い」や「願い」が具体化し、広がったり、深まったりすることが重要です。

本時への全員参加の学び合いへの前提条件として、ラウンドテーブルⅠとⅡを重視しました。特に、ラウンドテーブルⅡでは、自分の考えと違う友達の考えの情報を事前に得ることによって、独りよがりの「思い」や「願い」ではなくなることを期待しています。

2年生なりに、本時における専門家の質問やアドバイスから自分と友達の考えを比較し、よりよいウサギの赤ちゃんのためのお世話を求めようとする事ができると考えました。

＜ラウンドテーブルⅠのねらい＞

ウサギの赤ちゃんを育てる事への「思い」や「願い」を伝え合いある程度明確化する

＜ラウンドテーブルⅡのねらい＞

それぞれのお世話工夫計画を事前に交流し、情報を共有化しておく

＜ラウンドテーブルⅢのねらい（本時）＞

専門家からの質問やアドバイスを聞いた後での自分なりの考え方の変化を伝え合う

(8) 他者評価を生かし自分らしさを高め合う学び合いの工夫【研究視点3-2】（本時）

動物の飼育活動では、一層の愛情をもって動物とかかわれるようになることをねらっています。そこで、本時では、専門家として旭山動物園の飼育係の奥山さんに協力していただきます。本学級の子どもたちにとって、1学年の主張授業や冬の動物園見学などで奥山さんにお世話になっている奥山さんは他者評価者として申し分ないと考えました。

交流場面においては、担任の司会で子ども同士をかかわらせたり、専門家の立場からの意見を求めたり、子どもたちへ質問したりしていただくことによって学び合い(ウサギの赤ちゃんのお世話を考え合うため)の活性化を図ります。次の観点から、子どもたちの話し合いを整理していきます。

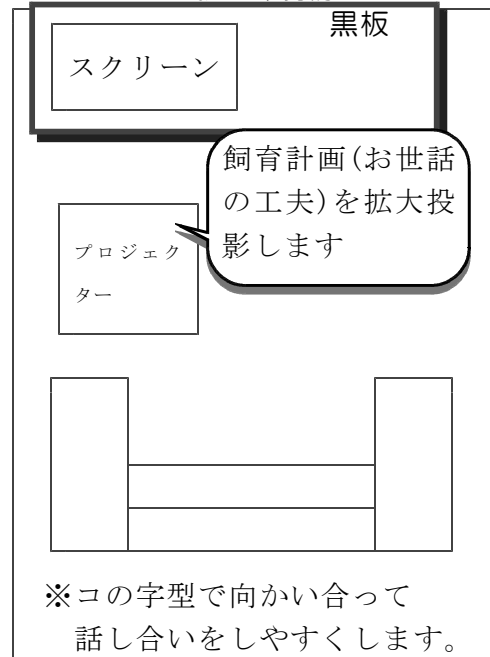
【アドバイスや質問の主な観点】

- 環境の工夫に対する賞賛と励まし
- うさぎやその赤ちゃんにとっての喜び
- 専門家の立場からの注意事項

この観点からのアドバイスや質問を受け、自分なりにお世話の計画を見直してからの「ラウンドテーブル」も、自分らしさを高め合う子ども同士での学び合い(ウサギの赤ちゃんの飼育に対する自分らしい「思い」や「願い」の深まり)の場面であると考えました。

また、単元を通して具体的な活動の直後には指導者からの評価規準に基づいた評価を子どもたちに返す(具体的によさを褒める)ことを心がけました。このことも、自分らしさを高めることに効果的な他者評価の工夫の1つです。

＜自分らしさを高め合う学び合いのための教室環境構成の工夫＞



7 本時の学習

(1) 本時の目標

○ウサギの赤ちゃんのお世話について自分なりに調べてきたことをもとにして話し合い、専門家の質問やアドバイスを得て、よりよいお世話について考え主体的なお世話への意欲を高める。

(2) 本時の展開概要

学習内容と主な学習活動	見取りの観点と教師の働きかけ 【学習活動における具体的評価規準】
1 これまでの飼育活動を想起する 2 本時の学習内容の確認	○飼育活動の見取りから「ア②」にかかわって顕著な子どもを紹介する… ◇プロジェクターで提示 研究視点 2-1 ◇学習内容を黒板へ提示する
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">ウサギの赤ちゃんのお世話を考えよう</div>	
3 飼育工夫計画の検討 ・いくつかの工夫を紹介し、そのことについてのよさを話し合う 4 旭山動物園の飼育係(奥山さん)からの質問やアドバイス <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <質問やアドバイスの観点> ①環境の工夫に対する賞賛と励まし ②うさぎ(赤ちゃん)にとっての喜び ③専門家の立場からの注意事項 </div> 5 自分のお世話をそれぞれ見直す 6 ウサギの赤ちゃんのお世話への「思いや「願い」を伝え合う 7 よりよいお世話についてそれぞれ考える	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 「ア②」(発言分析, 行動観察) ・赤ちゃんの成長を楽しみにしているか ◇プロジェクターによる投影 ◇モデルをいくつか示し, それぞれについて話し合う ○子ども同士や奥山さんとのかかわりをアドバイスの観点で整理しながら司会する…研究視点 3-2 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 「ウ②」(発言分析, 行動観察) ・ウサギの赤ちゃんのことを考えているか ○よりよい見直しの見取りと問いかけ 見取りの視点は「ア②」と「ウ②」に基づいて行う…研究視点 2-1 ○紹介と具体的な賞賛⇒本時の見取りから紹介する…研究視点 2-1 </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">このお世話ならクリリンも赤ちゃんも喜ぶだろうね</div>	
8 自己評価カードへの振り返りと今後の学習への期待をもつ ※自分で決めた自己評価項目に対する振り返りを行わせる(問いかけ)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 「ウ②」(自己評価の作品分析) ・ウサギの赤ちゃんのことを考えているか(問いかけによるかき加え) …研究視点 2-3 ⇒日常観察に生かす(見取る対象重点化) </div>

◇授業を観察していただくために

- ウサギの赤ちゃんの飼育計画の交流は、専門家からの質問やアドバイス、自分なりのこだわりを見つめ直しすることによって、お世話への意欲を高めることができましたか
- 教師の評価規準に基づいた働きかけは、子どもたちが自分らしいよりよいお世話に気付くために効果的でしたか